

科目名	マーケティング	学科名	農業経営学科
分類	必修	配当年次・学期	2年次 前期・後期
授業時数	60時間	単位数	4単位
授業方法	講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	神邊 明里	実務経験のある教員科目	○:該当
科目概要	日々変化する消費者の購買需要に働きかける活動がマーケティングである。ここでは、農産物の引力を高め、消費者を引きつけ、「農」と「食」を効果的につなぐ手法を学ぶ。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	農業におけるマーケティングの方向性を検討し、マーケティングの知識を習得、行動につないでいく。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	農業のマーケティング教科書 日本経済新聞出版社		
成績評価の方法 ・基準	定期考查および受講態度、出席率を総合的に判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可とする。		
履修に当たっての留意点	農業におけるマーケティング事例を紹介しながら、「農」と「食」に係わるマーケティング手法について興味関心を持って取り組む。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第2回目	これからの農業	今までの農業・これからの農業
第3回目～第4回目	農と食の関係	農業の再定義
第5回目～第6回目	農業マーケティング①	農業にマーケティングの発想①
第7回目～第8回目	農業マーケティング②	農業にマーケティングの発想②
第9回目～第10回目	品質	品質と消費者
第11回目～第12回目	取り組み事例①	農業マーケティングの取り組み事例①
第13回目～第14回目	取り組み事例②	農業マーケティングの取り組み事例②
第15回目～第16回目	ブランド①	強いブランド作りとは①
第17回目～第18回目	ブランド②	強いブランド作りとは②
第19回目～第20回目	農産物の個性化①	個性化を打ち出す方法とは①
第21回目～第22回目	農産物の個性化②	個性化を打ち出す方法とは②
第23回目～第24回目	6次産業化	農業の6次産業化を成功させるために
第25回目～第26回目	体験価値	農業の体験価値の伝え方
第27回目～第28回目	マーケティング活動①	積極的なマーケティング活動を行うためには
第29回目～第30回目	マーケティング活動②	まとめ

科目名	ストアオペレーション	学科名	農業経営学科
分類	必修	配当年次・学期	2年次 前期
授業時数	30時間	単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携	<input checked="" type="radio"/> :該当
担当教員	柿崎 渉	実務経験のある教員科目	<input checked="" type="radio"/> :該当 <input checked="" type="radio"/>
科目概要	店舗運営における開店準備から、日々の業務、荷受・検収・補充発注の基本・包装・ディスプレイ手法などを学ぶと同時に各種店舗形態を学ぶ。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	店舗を運営するうえで欠かせない基本的知識を身につける。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	リテールマーケティング(販売士)検定3級テキスト&問題集(成美堂出版) その他必要な物は適宜指示する。		
成績評価の方法 ・基準	定期考查および受講態度、出席率を総合的に判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可とする。		
履修に当たっての留意点	店舗利益の安定確保を実現するための手法を実際の店舗運営事例と照らし合わせながら理解してほしい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	開店準備	クリンリネス・レジ業務・朝礼・身だしなみ
第2回目	レジ業務	レジ業務・ミーティング
第3回目	荷受・検収・補充発注	荷受・検収・補充・発注の基本
第4回目	包装技術	包装技術の役割・種類
第5回目	ディスプレイ①	ディスプレイの役割
第6回目	ディスプレイ②	陳列器具によるパターン
第7回目	ディスプレイ③	販売方法によるパターン
第8回目	ディスプレイ④	ファッション衣料業界
第9回目	店舗形態①	総合品揃えスーパー
第10回目	店舗形態②	スーパーマーケット
第11回目	店舗形態③	ホームセンター
第12回目	店舗形態④	ドラッグストア
第13回目	店舗形態⑤	コンビニエンスストア
第14回目	店舗形態⑥	その他の店舗形態
第15回目	総合問題演習	問題演習と解説

科目名	パソコン実習Ⅱ	学科名	農業経営学科
分類	必修	配当年次・学期	2年次 後期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	実習	企業等との連携	<input type="radio"/> ○:該当
担当教員	望月 久美	実務経験のある教員科目	<input type="radio"/> ○:該当
科目概要	職場で役立つパソコンを効率よく活用するため、また商品のパッケージデザイン等を行う際に必要なIllustrator,Photoshopの基本操作を習得する。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	学校内部の制作物や外部コンテストにおいて制作できる技術を習得する。デザイン面においては規定の形式を元にオリジナリティを組み込めるレベルで制作できる。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	デザインの学校 これからはじめる Illustratorの本 (技術評論社) デザインの学校 これからはじめる Photoshopの本 (技術評論社)		
成績評価の方法 ・基準	課題提出および受講態度、出席率を総合的に判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可とする。		
履修に当たっての留意点	基本技術を習得する際に季節の行事に合わせて印刷物やSNSに対応した素材作成を意識して指導する。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	導入	Adobe Illustratorとは
第2回目	基本操作編①	基本操作
第3回目	基本操作編②	オブジェクトの基本操作
第4回目	基本操作編③	パスの描画
第5回目	基本操作編④	カラー設定
第6回目	基本操作編⑤	オブジェクトの編集
第7回目	基本操作編⑥	文字の作成
第8回目	Photoshopの操作について	インターフェイス・環境設定
第9回目	コンテンツ制作①	名刺の作成
第10回目	コンテンツ制作②	写真をパスに変換
第11回目	コンテンツ制作③	イラストレーション
第12回目	コンテンツ制作④	ロゴデザイン
第13回目	コンテンツ制作⑤	ページ設定
第14回目	コンテンツ制作⑥	文書の印刷
第15回目	技術のまとめ	操作の習得状況の確認

科目名	パソコン実習Ⅱ	学科名	農業経営学科
分類	必修	配当年次・学期	2年次 後期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	実習	企業等との連携	<input type="checkbox"/> :該当
担当教員	望月 久美	実務経験のある教員科目	<input type="checkbox"/> :該当
科目概要	職場で役立つパソコンを効率よく活用するため、また商品のパッケージデザイン等を行う際に必要なIllustrator,Photoshopの基本操作を習得する。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	学校内部の制作物や外部コンテストにおいて制作できる技術を習得する。デザイン面においては規定の形式を元にオリジナリティを組み込めるレベルで制作できる。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	デザインの学校 これからはじめる Illustratorの本 (技術評論社) デザインの学校 これからはじめる Photoshopの本 (技術評論社)		
成績評価の方法 ・基準	課題提出および受講態度、出席率を総合的に判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可とする。		
履修に当たっての留意点	基本技術を習得する際に季節の行事に合わせて印刷物やSNSに対応した素材作成を意識して指導する。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	導入	Adobe Illustratorとは
第2回目	基本操作編①	基本操作
第3回目	基本操作編②	オブジェクトの基本操作
第4回目	基本操作編③	パスの描画
第5回目	基本操作編④	カラー設定
第6回目	基本操作編⑤	オブジェクトの編集
第7回目	基本操作編⑥	文字の作成
第8回目	Photoshopの操作について	インターフェイス・環境設定
第9回目	コンテンツ制作①	名刺の作成
第10回目	コンテンツ制作②	写真をパスに変換
第11回目	コンテンツ制作③	イラストレーション
第12回目	コンテンツ制作④	ロゴデザイン
第13回目	コンテンツ制作⑤	ページ設定
第14回目	コンテンツ制作⑥	文書の印刷
第15回目	技術のまとめ	操作の習得状況の確認

科目名	POP・色彩	学科名	農業経営学科
分類	必修	配当年次・学期	2年次 前期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	演習	企業等との連携	<input type="radio"/> ○:該当
担当教員	望月 久美	実務経験のある教員科目	<input type="radio"/> ○:該当
科目概要	POP広告は、商品の正確な情報や魅力を伝え、消費意欲を促す手段として欠かすことのできないものである。消費者の購買心理を理解し、ニーズに訴え、伝達する能力を学ぶ。ここでは、販売促進の基礎とPOP広告作成に関する基本知識を習得することを目的とする。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	外部イベントや学園祭、販売実践実習等で購買時点広告を作成できる。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	POP技能審査試験実技ワークブック 色彩検定公式テキスト3級編(20年改訂)・新配色カード199A その他必要なものについては適宜指示する。		
成績評価の方法 ・基準	日常の成績、出席率、実習の結果を合わせて総合的に評価する。		
履修に当たっての留意点	手描きの課題については作成ルールに従って行っているかを把握する必要がある。イラストも含めて規定に属していることを評価する。特にイラストについては得手不得手等のデザイン評価ではなく規定に従っているかを把握する。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	POP広告実技①	角ゴシック風の書体で漢字を書く
第2回目	POP広告実技②	角ゴシック風の書体で平仮名と英字を書く
第3回目	POP広告実技③	角ゴシック風の書体で片仮名と英字を書く
第4回目	POP広告実技④	丸ゴシック風の書体で書く
第5回目	POP広告実技⑤	色彩効果を学ぶ
第6回目	POP広告実技⑥	POP広告作品制作①
第7回目	POP広告実技⑦	POP広告作品制作②
第8回目	POP広告実技⑧	POP広告作品制作③
第9回目	POP広告実技⑨	POP広告作品制作④
第10回目	POP広告実技⑩	POP広告作品制作⑤
第11回目	POP広告実技⑪	POP広告作品制作⑥
第12回目	POP広告実技⑫	POP広告作品制作⑦
第13回目	POP広告実技⑬	POP広告作品制作⑧
第14回目	POP広告実技⑭	POP広告作品制作⑨
第15回目	POP広告実技⑮	POP広告作品制作⑩ 総合課題

科目名	農業技術応用	学科名	農業経営学科
分類	必修	配当年次・学期	2年次 後期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	演習	企業等との連携	<input type="radio"/> :該当
担当教員	柿崎 渉	実務経験のある教員科目	<input type="radio"/> :該当
科目概要	農業経済学を中心に農業と経済・市場の繋がりを理解するとともに、農産物の流通を考えるにあたって効果的な手法を理論と事例によって学習する。また、スマート農業と関連して流通的側面を踏まえ各種データを活用する方法も併せて学習する。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	農業と経済の繋がりを理解する 各種データを有効に経営へ活用する手法の習得		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	農業経済学[第5版](岩波書店) 文部科学省委託事業開発教材		
成績評価の方法 ・基準	授業出席率、授業態度、期末試験等を総合的に判断し評価する。ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	日頃から経済や流通に関心を寄せること		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	経済学	経済学基礎
第2回目	農業と経済	一般的な経済学と比較した農業経済学
第3回目	農業と経済	農業経済の性質①
第4回目	農業と土地	農業経済の性質②
第5回目	農業経営の特徴	日本における農業経営体の特徴と背景
第6回目	農業と市場	市場取引の特徴
第7回目	食料生産	理論的にみる食料生産
第8回目	農業と資源	農業生産の持続性
第9回目	データ活用と農業経営Ⅰ	データ活用の背景とステップ
第10回目	データ活用と農業経営Ⅰ	データ分析演習1
第11回目	データ活用と農業経営Ⅱ	各種ツールの活用
第12回目	データ活用と農業経営Ⅱ	データ分析演習2
第13回目	データ活用事例①	データ活用事例紹介
第14回目	データ活用事例②	データ活用事例紹介
第15回目	まとめ	まとめ

科目名	有機農法応用	学科名	農業経営学科
分類	必修	配当年次・学期	2年次 前期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	演習	企業等との連携	<input type="checkbox"/> :該当
担当教員	柿崎 渉	実務経験のある教員 教員科目	<input type="checkbox"/> :該当
科目概要	農業の自然循環機能を増進し、農業生産に由来する環境への負荷を低減する有機農法は、今後の農業の持続的な発展に大きく寄与するものである。本講義では有機JAS制度に関する知識のみにとどまらず、有機農法実践実習とリンクしながら管理技術の要点も整理・確認を図り、個々に有機農法を実施、有機JAS認証の取得が可能な水準を目指す。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	有機農産物JAS講習		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	有機農産物検査認証制度ハンドブックより抜粋		
成績評価の方法 ・基準	授業出席率、受講態度及び課題提出・定期考査等を総合的に判断し評価する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可とする。		
履修に当たって の留意点	有機農産物JASの制度面のみだけでなく、有機農法の意義的部分に関心を持ち、有機農法・慣行農法いずれの農法において営農する場合でも、農業の環境的側面を意識できるようにしてほしい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	有機農法とは	有機農法基礎振り返り
第2回目	有機農産物生産の原則	有機農産物生産における土づくり
第3回目	有機農産物生産の方針	種及び苗・肥培管理
第4回目	有機農産物生産の方針	一般管理・収穫後の管理
第5回目	生産行程の管理方法	内部規程・格付規程の作成と実施
第6回目	有機農産物の表示と関連法規	食品衛生法・有機農業推進法～消費者の意識
第7回目	有機農業の現状と課題	有機農法の普及に向けて
第8回目	有機農産物生産の原則	有機農産物生産原則、有機JAS法と認証制度
第9回目	有機農産物生産の方針	圃場の条件
第10回目	有機農産物生産の方針	病害虫管理
第11回目	生産行程の管理方法	生産行程管理者の役割と業務内容
第12回目	有機農産物の表示と関連法規	表示基準
第13回目	有機農業の現状と課題	農業経営の観点からみる有機農法の活用
第14回目	有機農法演習	有機農法対応肥料作成
第15回目	有機農法演習	有機農法対応病害虫対策資料作成

科目名	6次産業商品開発	学科名	農業経営学科
分類	必修	配当年次・学期	2年次 前期
授業時数	60時間	単位数	4単位
授業方法	講義	企業等との連携	<input checked="" type="radio"/> :該当
担当教員	牛久和弘・平林敏之	実務経験のある教員科目	<input checked="" type="radio"/> :該当
科目概要	6次産業は、生産から加工・販売までを総合的に取り組む産業である。ここでは、6次産業を実践する上で必要となる商品開発、商品企画等の知識を実践的な演習を通して習得する。同時に群馬イノベーションアワードへの参加も行う。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	群馬イノベーションアワードファイナリスト		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	適宜指示する。		
成績評価の方法 ・基準	日常の成績、出席率、課題研究レポートの結果を合わせて総合的に評価する。		
履修に当たって の留意点	6次産業の取り組み事例を紹介、4P理論を利用しながらオリジナルのプランを立てられるようにする。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第2回目	4P理論について	プロダクト・プロモーション・プライス・プレイス
第3回目～第4回目	事例研究①	6次産業の事例を4P理論から読み解く
第5回目～第6回目	事例研究②	6次産業の事例を4P理論から読み解く
第7回目～第8回目	事例研究③	6次産業の事例を4P理論から読み解く
第9回目～第10回目	商品開発案①	群馬イノベーションアワードについて
第11回目～第12回目	商品開発案②	開発計画の作成とプレゼンテーション①
第13回目～第14回目	商品開発案③	開発計画の作成とプレゼンテーション②
第15回目～第16回目	商品開発案④	開発計画の作成とプレゼンテーション③
第17回目～第18回目	事例研究④	6次産業の事例を研究しレポートを作成する
第19回目～第20回目	事例研究⑤	6次産業の事例を研究しレポートを作成する
第21回目～第22回目	事例研究⑥	6次産業の事例を研究しレポートを作成する
第23回目～第24回目	事例研究⑦	6次産業の事例を研究しレポートを作成する
第25回目～第26回目	事例研究⑧	6次産業の事例を研究しレポートを作成する
第27回目～第28回目	事例研究⑨	6次産業の事例を研究しレポートを作成する
第29回目～第30回目	事例研究⑩	6次産業の事例を研究しレポートを作成する

科目名	6次産業商品開発Ⅱ	学科名	農業経営学科
分類	必修	配当年次・学期	2年次 前期
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	実習	企業等との連携	<input type="radio"/> :該当 <input checked="" type="radio"/>
担当教員	岡庭 千代乃	実務経験のある教員 教員科目	<input type="radio"/> :該当
科目概要	様々な食材を用いて、新しい食品の開発を試みる。企業と連携して新商品開発の企画、試作、製造、評価などを体験的に学び食品開発のための知識・技術を身につける。また、自分たちで栽培・収穫した野菜のパッケージングのデザインも試作することにより販売技術を学ぶ。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	企業連携を行うことで、新商品開発に必要な一連の過程を習得する。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	適宜指示する。		
成績評価の方法 ・基準	日常の成績、出席率、課題研究レポートの結果を合わせて総合的に評価する。		
履修に当たって の留意点	企業の方からの授業形態もあるため、実際の現場の様子も授業に取り入れた学習内容である。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第2回目	導入	基礎調理について
第3回目～第4回目	基礎調理	基礎調理実習
第5回目～第6回目	企業連携新商品開発 ①	企業より商品開発の流れの説明、レシピ作成
第7回目～第8回目	〃	新商品試作
第9回目～第10回目	〃	企業プレゼン、評価・検討
第11回目～第12回目	〃	試作、完成
第13回目～第14回目	企業連携新商品開発 ②	企業より商品開発の流れの説明、レシピ作成
第15回目～第16回目	〃	新商品試作
第17回目～第18回目	〃	企業プレゼン、評価・検討
第19回目～第20回目	〃	試作、完成
第21回目～第22回目	企業連携新商品開発 ③	企業より商品開発の流れの説明、レシピ作成
第23回目～第24回目	〃	新商品試作
第25回目～第26回目	〃	企業プレゼン、評価・検討
第27回目～第28回目	〃	試作、完成
第29回目～第30回目	新商品開発まとめ	企業連携商品開発の確認

科目名	農産物加工実習	学科名	農業経営学科
分類	必修	配当年次・学期	2年次 前期・後期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	実習	企業等との連携	<input type="radio"/> ○:該当
担当教員	岡庭 千代乃	実務経験のある 教員科目	<input type="radio"/> ○:該当
科目概要	食品の加工と保存の原理を理解し、食品の保存性を高めるために用いられているさまざまな加工技術について理解し、加工食品の規格や表示についても実習を行い、加工工程の内容を学ぶ。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	食品の加工貯蔵に興味を持ち、製造工程を理解し、主な加工食品に対しての理解を深め、正確な基礎知識を身に付ける。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	自作テキスト 必要なものについては適宜指示する。		
成績評価の方法 ・基準	レポート提出および受講態度、実習態度、出席率を総合的に判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可とする。		
履修に当たって の留意点	食品加工論の講義内容でそれに準じた食品加工実習の目的、原理を理解し実習を行う。実習終了後は、試食の感想を含めレポート提出。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	導入、食品の包装、びん詰め	食生活と食品加工、食品加工の目的、加工食品の規格や表示制度
第2回目	農産食品の加工	穀物について、穀物を使用した加工実習
第3回目	"	粉類について、粉類についての加工実習
第4回目	"	豆類について、豆類についての加工実習
第5回目	"	いも類について、いも類についての加工実習
第6回目	"	野菜類について、野菜類についての加工実習
第7回目	"	果実類について、果実類についての加工実習
第8回目	畜産食品の加工	畜肉類について、畜肉類についての加工実習
第9回目	"	乳類について、乳類についての加工実習
第10回目	"	卵類について、卵類についての加工実習
第11回目	食品の保存方法	殺菌・除菌による保存 殺菌・除菌による保存についての加工実習
第12回目	"	乾燥法による保存 乾燥法による保存についての加工実習
第13回目	"	低温による保存 低温による保存についての加工実習
第14回目	"	pHの調節による保存 pHの調節による保存についての加工実習
第15回目	"	水分活性の低下と浸透圧による保存 水分活性の低下と浸透圧による加工実習

科目名	食品加工論	学科名	農業経営学科
分類	必修	配当年次・学期	2年次 前期・後期
授業時数	30時間	単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	岡庭 千代乃	実務経験のある教員科目	○:該当
科目概要	加工食品の保存の原理を理解し、食品の保存性を高めるために用いられているさまざまな加工技術について理解する。 また加工食品の規格や表示についても解説し、農産物加工実習で、加工工程の内容を学ぶ。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	食品の加工貯蔵に興味を持ち、製造工程を理解し、加工食品に対しての理解を深め、正確な基礎知識を身に付ける。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	『食品加工学と実習・実験』光生館		
成績評価の方法 ・基準	定期考查および受講態度、実習態度、出席率を総合的に判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可とする。		
履修に当たって の留意点	テキストを中心に講義形式で行う。 本講義内容は、農産物加工実習に必要な知識となる。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	はじめに	食品加工目的、加工方法など
第2回目	食品の保存方法	食品の品質変化の原因、水分制御による保存
第3回目	"	浸透圧を利用した保存、酸の作用による保存、低温による保存
第4回目	"	殺菌による保存
第5回目	"	殺菌による保存、ガス調節による保存、燻製による保存、
第6回目	"	添加物による保存
第7回目	食品の品質変質要素	食品の品質変質、微生物による変質
第8回目	食品の品質変質要素 脂質の酸敗	微生物による変質、酸敗の機序
第9回目	変質、食品の成分間反応、被害・汚染	酵素、酸素、光による変質、食品の成分間反応、昆虫や小動物による被害・汚染
第10回目	食品の包装	包装の役割、包装素材
第11回目	"	食品包装技術
第12回目	加工食品の規格基準 と表示	食品の表示と法律
第13回目	"	食品表示基準
第14回目	健康や栄養に関する表示	特定保健用食品、栄養機能食品、栄養強調表示など
第15回目	まとめ	まとめ



科目名	食品流通論	学科名	農業経営学科
分類	必修	配当年次・学期	2年次 後期
授業時数	30時間	単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携	<input type="radio"/> ○:該当
担当教員	平林 敏之	実務経験のある教員科目	<input type="radio"/> ○:該当
科目概要	農産物や加工食品の生産・消費や市場機構・価格形成の仕組み、流通業者と販売業者組織の展開を学んでいく。また、国際貿易・安全性・物流環境の各問題について考える。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	さまざまな品目の流通経路の特徴とそれに携わる業種について学び、現在の流通が抱える問題点や解決にむけた取組みについて理解する。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	教員作成プリント インターネットの最新資料		
成績評価の方法 ・基準	定期考査・期末試験の結果および受講態度、出席率を総合的に判断する。 出席率が70%を下回る場合は不可とする。		
履修に当たっての留意点	各テーマにおいて、その現状や課題を学び、食品流通の品目に応じた経路や関係業種の関わり、さまざまな食品の特徴などを理解する。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	物流の歴史・食品流通の現状と課題	物流の歴史・食品流通の現状と課題について学ぶ
第2回目	食品流通の推移・役割	食品流通の推移・役割について学ぶ
第3回目	国内食品流通市場のSDGs実現に向けて	国内食品流通市場のSDGs実現について学ぶ
第4回目	経済活動と世界の食料事情	経済活動と世界の食料事情について学ぶ
第5回目	グローバル化する食品流通	グローバル化する食品流通について学ぶ
第6回目	日本の食生活(需給と自給率)	日本の食生活(需給と自給率)について学ぶ
第7回目	食品流通の仕組みと働き	食品流通の仕組みと働きについて学ぶ
第8回目	主な食品の流通(米・小麦)	主な食品の流通(米・小麦)について学ぶ
第9回目	主な食品の流通(青果・畜産・加工品)	主な食品の流通(青果・畜産・加工品)について学ぶ
第10回目	主な食品の流通(牛乳・乳製品・加工品)	主な食品の流通(牛乳・乳製品・加工品)について学ぶ
第11回目	小テストと解説	これまでの授業で学んだ重要事項の理解度を点検する
第12回目	食品の品質と規格	食品の品質と規格について学ぶ
第13回目	食品マーケティング	食品マーケティングについて学ぶ
第14回目	重要事項の振り返り	これまでの授業内容の重要事項のおさらいをする
第15回目	期末試験対策テスト	期末テスト前の練習問題実施と間違いの検証を行う

科目名	農業情勢Ⅱ	学科名	農業経営学科
分類	必修	配当年次・学期	2年次 後期
授業時数	30時間	単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携	<input type="checkbox"/> :該当
担当教員	平林 敏之	実務経験のある教員科目	<input type="checkbox"/> :該当
科目概要	近年の農業情勢は、ウクライナ紛争などが関係した日本国内では解決できない世界的な問題が日本の農業に大きな影響を与えており、そのような国外の情勢に焦点を当てたテーマや食の安全、環境保全などについて学びます。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	日本農業技術検定 2級・3級		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	教員作成プリント インターネットの最新資料		
成績評価の方法 ・基準	定期考查・期末試験の結果および受講態度、出席率を総合的に判断する。 出席率が70%を下回る場合は不可とする。		
履修に当たっての留意点	日頃より、「農」と「食」に対する分野に対して意欲・関心を持ち、新聞やニュース等の最新の情勢にも目を向けて、授業に臨んでもらいたい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	社会情勢と将来性のある就職先の選択	今後の社会情勢を予測した将来性のある就職先の選択について考える
第2回目	農業経営・市場(いちば)・販売流通	市場の仕組みや農業経営に必要な知識・農産物の販売方法について学ぶ
第3回目	資材 購入と資金調達・農業協同組合	生産資材の選択と購入、資金の調達の方法、農業協同組合の役割について学ぶ
第4回目	農業経営と農業政策	農業経営のタイプと作目、基本となる農業政策の内容について学ぶ
第5回目	輸入と関税・農業保護政策・食料での支配	世界の関税比較、農業保護政策、食料で他国を支配する戦略について学ぶ
第6回目	アメリカの食料戦略・食料危機	小麦を使ったアメリカの食料戦略、世界の食料危機の現状について学ぶ
第7回目	ウクライナ危機の農業への影響	ロシア・ウクライナ紛争が世界の農業情勢に与える影響について学ぶ
第8回目	肥料が足らなくなる要因と影響	リン酸とカリウムの供給不足が及ぼす農業への影響について学ぶ
第9回目	農村の現状と役割	農村の持つ多面的機能の役割や保全、地球環境とのかかわりについて学ぶ
第10回目	小テストと解説	これまでの授業で学んだ重要事項の理解度を点検する
第11回目	安さに目がくらむ消費者	農産物や加工食品の価格と購入時の消費者心理について学ぶ
第12回目	スマート農業	スマート農業のさまざまな手法について学ぶ
第13回目	食の安全・遺伝子組換え	食の安全管理の方法・遺伝子組換え作物のメリット・デメリットについて学ぶ
第14回目	重要事項の振り返り	これまでの授業内容の重要事項のおさらいをする
第15回目	期末試験対策テスト	期末テスト前の練習問題実施と間違いの検証を行う

科目名	農業ビジネス実習 I	学科名	農業経営学科
分類	必修	配当年次・学期	2年次 前期・後期
授業時数	120時間	単位数	4単位
授業方法	実習	企業等との連携	<input type="radio"/> :該当 <input checked="" type="radio"/>
担当教員	町田照夫・宮田祐介・柿崎涉	実務経験のある教員科目	<input type="radio"/> :該当 <input checked="" type="radio"/>
科目概要	農場における自主的な各種栽培管理実習を通じ、農業の基礎的な知識、技術を応用し理解・習得する。また、出荷、販売を目的とし、品質のよい作物の生産を目指す。授業は校外の圃場での実習を基本とし、野菜・作物などの栽培を班別に実習形式で行う。自主的な作付計画立案、体系的な実習と都度の記録・振り返りを通じて、創造的・実践的態度を身につける。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	日本農業技術検定2級・3級		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	適宜指示する		
成績評価の方法 ・基準	授業出席率、受講態度及び課題提出等を総合的に判断し評価する。ただし、出席率が70%を下回る場合は不可とする。		
履修に当たっての留意点	機械等操作する場面が多いため、安全面には特に留意してもらいたい。		

授業計画	テーマ	内容
第01回目～第04回目	圃場面積の求め方	簡易測量法を用いて圃場を班ごとに区分けする
第05回目～第08回目	作付計画の立案	各班ごとに年間の作付計画を作成する
第09回目～第12回目	総合病害虫管理①	連作障害対策や耐病性品種について
第13回目～第16回目	種子と育苗	連作障害対策や耐病性品種について
第17回目～第20回目	pH・肥料計算	簡易土壤診断の結果をもとに施肥設計を行う
第21回目～第24回目	農業機械の基本操作①	乗用トラクタの仕組みと操作方法
第25回目～第28回目	総合病害虫管理②	接ぎ木の方法と効果
第29回目～第32回目	総合病害虫管理③	マルチ・寒冷紗の役割
第33回目～第36回目	農業機械の基本操作②	背負い式・動力防除機及び農薬の使用
第37回目～第40回目	農業機械の基本操作③	歩行型トラクタの仕組みと操作方法
第41回目～第44回目	収穫・調整	収穫適期や調整方法、規格
第45回目～第48回目	販売	販売の実践
第49回目～第52回目	機械・農具メンテナンス	機械類の整備と洗浄・管理
第53回目～第56回目	プレゼンテーション手法	スライド作成ソフトを用いたプレゼンテーション資料の作成手法を学ぶ
第57回目～第60回目	資料作成	研究課題のとりまとめ、プレゼン資料の作成

科目名	有機農法実践実習	学科名	農業経営学科
分類	必修	配当年次・学期	2年次 前期・後期
授業時数	120時間	単位数	4単位
授業方法	実習	企業等との連携	<input type="radio"/> :該当
担当教員	町田照夫・小林優太	実務経験のある教員科目	<input type="radio"/> :該当 <input checked="" type="radio"/>
科目概要	農場における自主的な各種栽培管理実習を通じ、農業の基礎的な知識、技術を応用し理解・習得する。また、有機農法を理解し、化学肥料、農薬などを使用しない環境保全に配慮した農法を学ぶ。授業は校外の圃場での実習を基本とし、必要に応じ、現地視察などを取り入れ、野菜・作物などの栽培を班別に実習形式で行う。自主的な作付計画立案、体系的な実習と都度の記録・振り返りを通じて、創造的・実践的態度を身につける。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	日本農業技術検定2級・3級		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	適宜指示する		
成績評価の方法 ・基準	授業出席率、受講態度及び課題提出等を総合的に判断し評価する。ただし、出席率が70%を下回る場合は不可とする。		
履修に当たっての留意点	機械等操作する場面が多いため、安全面には特に留意してもらいたい。		

授業計画	テーマ	内容
第01回目～第04回目	有機農法の理念と特徴	環境に配慮した農法の重要性について
第05回目～第08回目	土壤①:物理性	有機物と団粒構造
第09回目～第12回目	土壤②:生物性	微生物のはたらきと有機肥料
第13回目～第16回目	有機JAS適合資材 ①:肥料	有機JAS圃場における肥培管理
第17回目～第20回目	栽植密度と収量計算	有機農法と慣行農法の違い
第21回目～第24回目	総合病害虫管理①	コンパニオンプランツ
第25回目～第28回目	総合病害虫管理②	有機圃場の雑草対策
第29回目～第32回目	有機JAS適合資材 ②:農薬	有機JAS圃場での利用が許容されている農薬
第33回目～第36回目	有機肥料と化学肥料	それぞれの効果と施用方法の違い
第37回目～第40回目	収穫・調整	収穫適期や調整方法、規格
第41回目～第44回目	有機JAS認定取得手順	有機JAS認証取得の手順
第45回目～第48回目	生産工程管理と格付	収穫物を用いた有機JAS表示の模擬作業
第49回目～第52回目	堆肥の役割と作成	堆肥の効果とボカシ肥料作成
第53回目～第56回目	現地視察	加工業
第57回目～第60回目	現地視察	販売

科目名	農業演習	学科名	農業経営学科
分類	必修	配当年次・学期	2年次 前期・後期
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	演習	企業等との連携	<input type="checkbox"/> :該当
担当教員	松島 広征 ・ 小林 優太	実務経験のある教員科目	<input type="checkbox"/> :該当
科目概要	実務において必要となるの計算知識と技術を学ぶ。帳票計算と商業計算などを通じて計数管理能力を身につける。 また、栽培活動に結びつく、幅広い知識・技術を習得することを目的に、座学・実習を行い農業への実践的な知識を身につける。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	記帳技術・販売に関する計算技術・利息計算などの知識を習得を目指す。 また、栽培を行うにあたり多角的な視点で農業をみられる知識を身に着ける。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	公式テキスト計算実務3級(共栄出版) その他必要なものについては適宜指示する。		
成績評価の方法 ・基準	授業出席率、授業態度、確認テスト等を総合的に判断し評価する。ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たって の留意点	簿記会計で学んだ知識を活かし、企業実務的な視点で取り組んでほしい。 また、自身の就職先など今後に関わる部分に対して関わる部分は積極的に学習し広い視野を持ち学習を行ってほしい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第2回目	電卓計算①	電卓の有効活用(メモリ機能について)
第3回目～第4回目	電卓計算②	乗算・除算・複合算・構成比率
第5回目～第6回目	帳票計算基礎①	出納帳・売上帳・仕入帳
第7回目～第8回目	帳票計算基礎②	伝票算
第9回目～第10回目	商業計算基礎	歩合算
第11回目～第12回目	帳票計算応用	仕訳帳・元帳・仕入帳・売上帳
第13回目～第14回目	商業計算応用	売価・利息に関する計算
第15回目～第16回目	総合問題	まとめ
第17回目～第18回目	農業の歴史	農耕の起源から日本及び世界の農業について
第19回目～第20回目	植物バイオテクノロジー	組織培養の仕組みと利用について。
第21回目～第22回目	地形と農業	各地形の違い等から農業への土地利用を学ぶ
第23回目～第24回目	特用作物	こんにゃくや熱帯果樹などの特産作物を学習する。
第25回目～第26回目	育苗技術	各種育苗方法の違いと接木苗生産
第27回目～第28回目	農産物の周年出荷	各地域や産地の特徴と栽培方法の違い
第29回目～第30回目	農業法人の設立	農業の法人化のメリット・デメリットと法律

科目名	就職研究Ⅱ	学科名	農業経営学科
分類	必修	配当年次・学期	2年次 前期・後期
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	演習	企業等との連携	<input type="radio"/> :該当
担当教員	岡庭 千代乃	実務経験のある教員科目	<input type="radio"/> :該当
科目概要	就職活動本番をむかえて、「問題解決行動」を実践する。フィールドワークを中心に行い、ワークシートにより学生自ら考えさせ、それらの模擬体験(会社訪問の仕方・面接試験対応等)を行ながら就職試験本番に向け準備を進める。なお、就職活動状況に応じて個別指導も行う。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	就職内定		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	就職成功へのステップ、一般常識チェック＆マスター(実教出版)		
成績評価の方法 ・基準	授業出席率、受講態度及び課題提出等を総合的に判断し評価する。		
履修に当たっての留意点	就職活動を通し体験した「問題解決行動」を身に付け、社会人となつても有効活用できるように結び付ける。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第2回目	本番に備え仕上げ	業界・企業研究(企業選び)
第3回目～第4回目	本番に備え仕上げ	ビジネスマナーの修得
第5回目～第6回目	本番に備え仕上げ	模擬面接の実施
第7回目～第8回目	積極的な行動とは	会社訪問の仕方・質問の受け答え
第9回目～第10回目	積極的な行動とは	企業ガイダンスの参加
第11回目～第12回目	積極的な行動とは	志望動機の書き方
第13回目～第14回目	試験準備	PI履歴書の作成
第15回目～第16回目	試験準備	筆記試験対策
第17回目～第18回目	試験準備	模擬面接
第19回目～第20回目	試験準備	模擬面接
第21回目～第22回目	内定から入社まで	内定礼状・提出書類
第23回目～第24回目	内定から入社まで	内定後の過ごし方
第25回目～第26回目	内定から入社まで	社会人としての準備
第27回目～第28回目	内定から入社まで	社会人としての準備
第29回目～第30回目	内定から入社まで	社会人としての準備

科目名	就職研究Ⅱ	学科名	農業経営学科
分類	必修	配当年次・学期	2年次 前期・後期
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	演習	企業等との連携	<input type="radio"/> :該当
担当教員	岡庭 千代乃	実務経験のある教員科目	<input type="radio"/> :該当
科目概要	就職活動本番をむかえて、「問題解決行動」を実践する。フィールドワークを中心に行い、ワークシートにより学生自ら考えさせ、それらの模擬体験(会社訪問の仕方・面接試験対応等)を行ながら就職試験本番に向け準備を進める。なお、就職活動状況に応じて個別指導も行う。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	就職内定		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	就職成功へのステップ、一般常識チェック＆マスター(実教出版)		
成績評価の方法 ・基準	授業出席率、受講態度及び課題提出等を総合的に判断し評価する。		
履修に当たっての留意点	就職活動を通じ体験した「問題解決行動」を身に付け、社会人となつても有効活用できるように結び付ける。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第2回目	本番に備え仕上げ	業界・企業研究(企業選び)
第3回目～第4回目	本番に備え仕上げ	ビジネスマナーの修得
第5回目～第6回目	本番に備え仕上げ	模擬面接の実施
第7回目～第8回目	積極的な行動とは	会社訪問の仕方、質問の受け答え
第9回目～第10回目	積極的な行動とは	企業ガイダンスの参加
第11回目～第12回目	積極的な行動とは	志望動機の書き方
第13回目～第14回目	試験準備	PI履歴書の作成
第15回目～第16回目	試験準備	筆記試験対策
第17回目～第18回目	試験準備	模擬面接
第19回目～第20回目	試験準備	模擬面接
第21回目～第22回目	内定から入社まで	内定礼状・提出書類
第23回目～第24回目	内定から入社まで	内定後の過ごし方
第25回目～第26回目	内定から入社まで	社会人としての準備
第27回目～第28回目	内定から入社まで	社会人としての準備
第29回目～第30回目	内定から入社まで	社会人としての準備

科目名	農業会計応用	学科名	農業経営学科
分類	選択必修	配当年次・学期	2年次 前期・後期
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	演習	企業等との連携	<input type="radio"/> :該当
担当教員	松島 広征	実務経験のある教員科目	<input type="radio"/> :該当
科目概要	商業簿記を基礎として農業企業(農業)における生産活動から販売活動に至るまでの経済活動記録を記録、活用する手法を学ぶ。特に農業特有の生産活動にともなう記録が重要となる。また、原価計算手法を学ぶ。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	日本ビジネス技能検定協会 農業簿記検定2・3級		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	必要なものについては適宜指示する。		
成績評価の方法 ・基準	日常の成績、出席率、期末試験の結果を合わせて総合的に評価する。		
履修に当たっての留意点	単元ごとに問題演習、理解度確認テストを実施。総合問題演習においては過去問題を中心に反復し理解を深める。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第2回目	農業簿記とは	農業経営と勘定科目
第3回目～第4回目	農業特有の会計処理 ①	収益と費用
第5回目～第6回目	農業特有の会計処理 ②	流動資産と流動負債
第7回目～第8回目	農業特有の会計処理 ③	固定資産
第9回目～第10回目	農業特有の会計処理 ④	決算書の作成
第11回目～第12回目	過去問題論点別対策	問題演習と解説
第13回目～第14回目	材料費・労務費・経費	計算と記帳方法
第15回目～第16回目	部門別計算	部門別集計方法
第17回目～第18回目	製品別計算	原価計算方法
第19回目～第20回目	財務諸表	農企業の財務諸表
第21回目～第22回目	標準原価計算	原価計算方法
第23回目～第24回目	CVP分析	短期利益計画と損益分岐点分析
第25回目～第26回目	固定資産・繰延資産	リース会計・圧縮記帳
第27回目～第28回目	決算	財務諸表作成
第29回目～第30回目	過去問題論点別対策	問題演習と解説

科目名	応用化学Ⅱ	学科名	農業経営学科
分類	選択必修	配当年次・学期	2年次 前期・後期
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	演習	企業等との連携	<input type="radio"/> ○:該当
担当教員	石川 茂弘	実務経験のある教員科目	<input type="radio"/> ○:該当
科目概要	危険物取扱者乙種第4類の資格を取得するために必要な、基礎的な物理知識や化学知識、これに関わる法規類を学習する。過去に出題された試験問題を題材に重要ポイントを整理し、出題傾向をつかみ、その対策を考える。配布された資料はファイリングし自分の弱点克服の「虎の巻」にしてほしい。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	危険物取扱者乙類4類		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	・チャレンジライセンス 乙種4類 危険物取扱者テキスト(実教出版)		
成績評価の方法 ・基準	授業出席率、授業態度、確認テスト等を総合的に判断し評価する。ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	・授業に出席すること。覚えるべき用語(キーワード)は正確に確実に頭に叩き込んで検定にチャレンジ。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第2回目	導入:危険物取扱試験とは	検定についての概要説明と合格基準
第3回目～第4回目	物理、化学の基礎知①	物理の基礎的な知識(物質の三態)・化学の基礎的な知識(酸化と還元)
第5回目～第6回目	物理、化学の基礎知②	危険物乙種4類:燃焼、消火に関する基礎的な知識
第7回目～第8回目	危険物の性状①	危険物の分類・乙種第4類危険物の性質①・事故例
第9回目～第10回目	危険物の性状②	乙種第4類危険物の性質②
第11回目～第12回目	危険物に関する法令①	危険物と指定数量・保安制度
第13回目～第14回目	危険物に関する法令②	危険物取扱者と保安講習、製造所等の区分と位置・構造・設備の基準
第15回目～第16回目	危険物に関する法令③	危険物の分類管理等、まとめ
第17回目～第18回目	検定対策①	模擬問題演習①
第19回目～第20回目	検定対策②	模擬問題演習②
第21回目～第22回目	検定対策③	模擬問題演習③
第23回目～第24回目	検定対策④	模擬問題演習④
第25回目～第26回目	検定対策⑤	模擬問題演習⑤
第27回目～第28回目	検定対策⑥	模擬問題演習⑥
第29回目～第30回目	応用化学のその先	まとめ

科目名	農業ビジネス実習Ⅱ	学科名	農業経営学科
分類	選択必修	配当年次・学期	2年次 前期・後期
授業時数	120時間	単位数	4単位
授業方法	実習	企業等との連携	<input type="radio"/> ○:該当 <input type="radio"/> ○
担当教員	町田照夫・宮田祐介	実務経験のある教員科目	<input type="radio"/> ○:該当 <input type="radio"/> ○
科目概要	農場における自主的な各種栽培管理実習を通じ、農業の基礎的な知識、技術を応用し理解・習得する。また、出荷、販売を目的とし、品質のよい作物の生産を目指す。授業は校外の圃場での実習を基本とし、必要に応じ、現地視察などを取り入れ、野菜・作物などの栽培を班別に実習形式で行う。自主的な作付計画立案、体系的な実習と都度の記録・振り返りを通じて、創造的・実践的态度を身につける。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	日本農業技術検定2級・3級		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	適宜指示する		
成績評価の方法 ・基準	授業出席率、受講態度及び課題提出等を総合的に判断し評価する。ただし、出席率が70%を下回る場合は不可とする。		
履修に当たっての留意点	機械等操作する場面が多いため、安全面には特に留意してもらいたい。		

授業計画	テーマ	内容
第01回目～第04回目	圃場面積の求め方	簡易測量法を用いて圃場を班ごとに区分けする
第05回目～第08回目	作付計画の立案	各班ごとに年間の作付計画を作成する
第09回目～第12回目	総合病害虫管理①	連作障害対策や耐病性品種について
第13回目～第16回目	種子と育苗	連作障害対策や耐病性品種について
第17回目～第20回目	pH・肥料計算	簡易土壤診断の結果をもとに施肥設計を行う
第21回目～第24回目	農業機械の基本操作①	乗用トラクタの仕組みと操作方法
第25回目～第28回目	総合病害虫管理②	接ぎ木の方法と効果
第29回目～第32回目	総合病害虫管理③	マルチ・寒冷紗の役割
第33回目～第36回目	農業機械の基本操作②	背負い式・動力防除機及び農薬の使用
第37回目～第40回目	農業機械の基本操作③	歩行型トラクタの仕組みと操作方法
第41回目～第44回目	収穫・調整	収穫適期や調整方法、規格
第45回目～第48回目	販売	販売の実践
第49回目～第52回目	機械・農具メンテナンス	機械類の整備と洗浄・管理
第53回目～第56回目	現地視察	6次産業化実践経営体
第57回目～第60回目	現地視察	水耕栽培

科目名	農産物活用実習Ⅱ	学科名	農業経営学科
分類	選択必修	配当年次・学期	2年次 前期・後期
授業時数	120時間	単位数	4単位
授業方法	実習	企業等との連携	<input type="radio"/> :該当
担当教員	岡庭 千代乃	実務経験のある教員科目	<input type="radio"/> :該当
科目概要	農産物を加工・活用方法を理解し、食品の保存性を高めるために用いられているさまざまな加工技術・工程について学ぶと共に衛生面についても知識を学ぶ。新鮮な食材の利用方法としての調理実習を通し理解する。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	農産物・食品原材料と加工食品・衛生面等を実習を通して習得する。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	適宜指示する		
成績評価の方法 ・基準	授業出席率・受講態度等も加味し、総合的に判断し評価する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	実習を通して衛生面等をしっかりと身に付けさせる。 (身支度をはじめ実習室の衛生等)		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第4回目	導入	食材・食品加工・調理の目的、衛生等について
第5回目～第8回目	農産物の加工	野菜類の取り扱い・切り方
第9回目～第12回目	〃	野菜類の加工
第13回目～第16回目	〃	果実類の取り扱い・切り方
第17回目～第20回目	〃	果実類の加工
第21回目～第24回目	〃	穀類の取り扱い
第25回目～第28回目	〃	穀類の加工
第29回目～第32回目	〃	加熱殺菌・保存法
第33回目～第36回目	〃	低温による保存法
第37回目～第40回目	〃	pHの調節による保存法
第41回目～第44回目	調理実習	日本料理への活用(行事食①)
第45回目～第48回目	〃	日本料理への活用(行事食②)
第49回目～第52回目	〃	製菓への農産物活用
第53回目～第56回目	〃	洋食料理の農産物活用
第57回目～第60回目	〃	中華料理の農産物活用

科目名	花卉園芸実習Ⅱ	学科名	農業経営学科
分類	選択必修	配当年次・学期	2年次 前期・後期
授業時数	120時間	単位数	4単位
授業方法	実習	企業等との連携	<input checked="" type="radio"/> :該当
担当教員	柿崎 渉	実務経験のある教員科目	<input checked="" type="radio"/> :該当 <input checked="" type="radio"/>
科目概要	植物に関する栽培管理実習を通じ、植物の特徴、特性を活かした花壇やコンテナガーデン等を製作する。また、ハーブや工芸作物を栽培・収穫し有効な活用方法を学習する。作品製作には電動工具等を活用し、基礎的なDIYスキルも併せて習得する。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	多様な花卉園芸に関する現場作業で必要となる実践的スキルを習得するとともに、新しいデザイン・作品を創造する力を養う。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	適宜指示する。		
成績評価の方法 ・基準	授業出席率、授業態度および課題提出等を総合的に判断し評価する。ただし、出席率が70%を下回る場合は不可とする。		
履修に当たって の留意点	実習作業全般において、道具や機械、電動工具を用いた作業があるため、安全には特に注意してもらいたい。		

授業計画	テーマ	内容
第1～4回目	花卉生産圃場管理	花卉生産圃場管理実習(播種・定植等)
第5～8回目	花卉生産圃場管理	花卉生産圃場管理実習(誘引・追肥等)
第9～12回目	花卉生産圃場管理	花卉生産圃場管理実習(除草・剪定等)
第13～16回目	花卉生産圃場管理	花卉生産圃場管理実習(農薬散布等)
第17～20回目	植物活用	切花栽培と活用
第21～24回目	植物活用	ハーブ類の栽培と活用・アロマ
第25～28回目	植物活用	DIYの基礎
第29～32回目	植物育苗管理	セル育苗苗の鉢上げ実習
第33～36回目	植物育苗管理	肥料及び農薬散布等
第37～40回目	植物育苗管理	スペーシング・薬剤散布等
第41～44回目	植物育苗管理・校内花壇整備	苗販売準備作業・校内花壇整備実習
第45～48回目	校内花壇植栽	校内花壇新規デザイン植栽
第49～52回目	校内飾花実習	学校施設周辺(屋内・屋外)飾花実習
第53～56回目	校外視察	園芸店等花卉流通業界視察見学
第57～60回目	校内花壇整備	校内花壇管理実習

科目名	情報技術Ⅱ	学科名	農業経営学科
分類	必修	配当年次・学期	2年次 前期
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	演習	企業等との連携	<input type="radio"/> ○:該当
担当教員	柿崎 渉	実務経験のある教員科目	<input type="radio"/> ○:該当
科目概要	経済産業省ITパスポート試験に合格するために必要なコンピュータ知識から、システム開発・マネジメント、経営戦略までを学習する。 1年次の学習を基礎に新シラバス範囲の補充学習・試験対策演習を行う。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	ITパスポート試験		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	ITパスポート試験対策テキスト&過去問題集 令和4-5年度版 よくわかるマスター ITパスポート試験 書いて覚える学習ドリル その他公開問題(過去問)等		
成績評価の方法 ・基準	授業出席率、授業態度、期末試験、検定結果等を総合的に判断し評価する。ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	ITパスポート試験はCBT(Computer Based Testing)方式のため、基本的なコンピュータ操作についても習得しておくこと。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第2回目	テクノロジ系①	コンピュータ構成要素・システム構成要素
第3回目～第4回目	テクノロジ系②	ソフトウェア・ハードウェア
第5回目～第6回目	テクノロジ系③	情報デザイン・情報メディア
第7回目～第8回目	テクノロジ系④	データベース・ネットワーク
第9回目～第10回目	テクノロジ系⑤	セキュリティ
第11回目～第12回目	テクノロジ系⑥	表計算ソフト・式・関数の利用
第13回目～第14回目	新論点対策	テクノロジ系系新論点
第15回目～第16回目	新論点対策	ストラテジ系新論点
第17回目～第18回目	試験対策	CBT方式の検定試験対策
第19回目～第20回目	試験対策	CBT方式の検定試験対策
第21回目～第22回目	試験対策	模擬問題演習
第23回目～第24回目	試験対策	模擬問題演習
第25回目～第26回目	試験対策	模擬問題演習
第27回目～第28回目	試験対策	模擬問題演習
第29回目～第30回目	まとめ	まとめ

科目名	農業ICT実践Ⅱ	学科名	農業経営学科
分類	必修	配当年次・学期	2年次 前期・後期
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	演習	企業等との連携	<input type="radio"/> ○:該当
担当教員	SenseLibra株式会社	実務経験のある教員科目	<input type="radio"/> ○:該当
科目概要	Agri × Techとして、農業分野で情報技術をどのように活用できるかを学習する。 情報技術分野における基礎的な知識や操作の学習とともに、情報技術を利用した農業支援の実務を学習する。 IoT、Web、Cloud等の環境を活用できるよう、具体的なプロジェクトを設置し、簡易の開発や、運用を行う。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	各就業先の現場で役立つよう、技術革新の動向にも配慮した基礎知識や技術の習得をする。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	ITパスポート 技術評論社・オリジナルテキスト		
成績評価の方法 ・基準	日常の成績、出席率、実習の結果を合わせて総合的に評価する。		
履修に当たっての留意点	授業は、個別の電子デバイスを利用して演習を実施する。個別の表現になる為、グループ学習やロールプレイ、プレゼンテーション等の機会を取り入れていくので、主体的に学習していってほしい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第2回目	マネジメント実習	マネジメント実習②
第3回目～第4回目	ストラテジ実習	ストラテジ実習②
第5回目～第6回目	テクノロジ実習	テクノロジ実習②
第7回目～第8回目	マネジメント実習	マネジメント実習③
第9回目～第10回目	ストラテジ実習	ストラテジ実習③
第11回目～第12回目	テクノロジ実習	テクノロジ実習③
第13回目～第14回目	マネジメント実習	マネジメント実習④
第15回目～第16回目	ストラテジ実習	ストラテジ実習④
第17回目～第18回目	テクノロジ実習	テクノロジ実習④
第19回目～第20回目	マネジメント実習	マネジメント実習⑤
第21回目～第22回目	ストラテジ実習	ストラテジ実習⑤
第23回目～第24回目	テクノロジ実習	テクノロジ実習⑤
第25回目～第26回目	総合	総合
第27回目～第28回目	総合	総合
第29回目～第30回目	総合	総合

科目名	農業データ活用	学科名	農業経営学科
分類	必修	配当年次・学期	2年次 後期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	演習	企業等との連携	<input type="radio"/> ○:該当
担当教員	柿崎 渉	実務経験のある教員科目	<input type="radio"/> ○:該当
科目概要	データからどのように情報を読み取るか、分析結果を効果的に伝えるための視覚化手法等、基本的なデータリテラシーを身につける。また、農業分野において各種データを活用する意義や手法も併せて学習する。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	ICT技術を活用したデータ管理やそのデータ利用ができるようにする。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	学生のためのデータリテラシー(FOM出版) 文部科学省委託事業開発教材		
成績評価の方法 ・基準	日常の成績、出席率、実習、期末試験等の結果を合わせて総合的に評価する。		
履修に当たっての留意点	データの効果的な活用は正しいデータを取得している事が前提となる。あらゆる情報の中から、目的にあった正しい情報を取捨選別するという点についても日頃から意識しておいてほしい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	データ活用基礎①	データ活用と必要なスキル
第2回目	データ活用基礎②	データの準備とデータのタイプ
第3回目	データ活用基礎③	Googleフォームを用いたデータの収集
第4回目	データ活用基礎④	データの要約
第5回目	データ活用基礎⑤	質的変数の分析
第6回目	データ活用基礎⑥	量的変数の要約
第7回目	データ活用基礎⑦	平均と標準偏差
第8回目	データ活用基礎⑧	量的データの比較
第9回目	データ活用基礎⑨	散布図の活用
第10回目	データ活用基礎⑩	回帰分析の活用
第11回目	データ活用基礎⑪	関係性の分析
第12回目	農業データ活用①	農業データの種類
第13回目	農業データ活用②	次世代農業データ活用
第14回目	農業データ活用③	農業データ活用による品質向上等
第15回目	まとめ	まとめ

科目名	センシング基礎	学科名	農業経営学科
分類	必修	配当年次・学期	2年次 前期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	演習	企業等との連携	O:該当
担当教員	岡部 俊雄	実務経験のある教員科目	O:該当
科目概要	農業におけるセンシングについて学ぶ。「センシング」とは何か、その必要性や活用事例を紹介しながらセンサの仕組みを理解する。また、センサボックスを自作する。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	農業においてセンシング技術は、労働力の改善や栽培などに広く活用できることを学ぶと共に、センサの交換やメンテナンスを自身で行えることを目標にする。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	必要なものについては適宜指示する。		
成績評価の方法 ・基準	定期考查および受講態度、実習態度、出席率を総合的に判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可とする。		
履修に当たっての留意点	農業におけるセンサ・センシングの利用方法を学び、各種予測、品質・収量向上への応用方法、農業経営の改善等への活用にセンサ・センシングは有効であることを理解してほしい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	センシング概要①	センシングとは・センシングの必要性と測定
第2回目	センシング概要②	センサの仕組み・センシングカメラの利用例
第3回目	センサの利活用	センサの利活用事例・自作センサボックスについて
第4回目	ラズパイへのOSインストール	ダウンロード・初期設定・Piのリモート接続
第5回目	リモートデスクトップ接続①	固定IPアドレスの設定・リモートデスクトップ接続
第6回目	リモートデスクトップ接続②	Mozc(モズク)インストール・各種インターフェイス有効化
第7回目	RTCモジュールの実装	RTCモジュールの実装・認識確認
第8回目	温湿度モジュール①	温湿度モジュール基盤の実装とプログラミング
第9回目	温湿度モジュール②	温湿度センサのブレッドボード実装配線・プログラミング・動作確認
第10回目	温湿度モジュール③	接続時の注意・動作確認とデバッグ・各コマンド説明・2進法、10進法、16進法について
第11回目	温湿度センサの連続測定プログラム	エラー表示パターン・連続測定プログラム作成とデバッグ・プログラム修正
第12回目	Pythonプログラム	ラズパイとPCのリモート接続・プログラムの作り方・while文の使い方
第13回目	LCD増設①	AP変更による固定IPアドレスの再設定
第14回目	LCD増設②	固定IPアドレスの再設定・LCD追加配線①
第15回目	LCD増設③	固定IPアドレスの再設定・LCD追加配線②

科目名	ICT実践演習	学科名	農業経営学科
分類	必修	配当年次・学期	2年次 前期・後期
授業時数	90時間	単位数	3単位
授業方法	演習	企業等との連携	<input checked="" type="radio"/> :該当
担当教員	加藤 貨代	実務経験のある教員科目	<input checked="" type="radio"/> :該当
科目概要	情報通信技術を農業分野においてどのように活用できるかを学習する。 ドローンの仕組み・操縦法・動画撮影に至るまで実践的に学び圃場での記録映像を撮影し、生育状態を記録する。 スマート農業における各種データの意義・利活用を学習する。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	ICT技術を活用したデータ管理やそのデータ利用ができるようにする。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	文部科学省委託事業開発教材等		
成績評価の方法 ・基準	日常の成績、出席率、実習、確認テスト等の結果を合わせて総合的に評価する。		
履修に当たっての留意点	授業は、ドローンを使用し、その有効的な利用方法を学習、得られた情報をデータ化及び活用できる技術を習得してほしい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第3回目	ドローン実習	主な機能特徴について
第4回目～第6回目	ドローン実習	機体・送信機 各部名称について
第7回目～第9回目	ドローン実習	ミニドローン操作
第10回目～第12回目	ドローン実習	PHANTOM4 フライトの注意点 ミニドローン操作
第13回目～第15回目	ドローン実習	マニュアル確認 離陸・着陸について
第16回目～第18回目	ドローン実習	マニュアル確認 動画撮影について
第19回目～第21回目	ドローン実習	フライト・動画撮影練習
第22回目～第24回目	ドローン実習	フライト・動画撮影 撮影動画編集
第25回目～第27回目	ドローン実習	フライト・動画撮影 撮影動画編集
第28回目～第30回目	ドローン実習	フライト・動画撮影 撮影動画編集
第31回目～第33回目	データ基礎	日本における農業の現状とスマート農業
第34回目～第36回目	データ基礎	スマート農業とICT
第37回目～第39回目	データ活用	農業データの種類
第40回目～第42回目	データ活用	次世代農業データ活用
第43回目～第45回目	データ活用	農業データを活用した品質向上・ブランド化

科目名	農業ビジネス実習	学科名	農業経営学科
分類	必修	配当年次・学期	2年次 前期・後期
授業時数	240時間	単位数	8単位
授業方法	実習	企業等との連携	<input type="radio"/> ○:該当 <input checked="" type="radio"/> ○
担当教員	町田照夫・宮田祐介	実務経験のある教員科目	<input type="radio"/> ○:該当 <input checked="" type="radio"/> ○
科目概要	農場における自主的な各種栽培管理実習を通じ、農業の基礎的な知識、技術を応用し理解・習得する。また、出荷、販売を目的とし、品質のよい作物の生産を目指す。授業は校外の圃場での実習を基本とし、野菜・作物などの栽培を班別に実習形式で行う。自主的な作付計画立案、体系的な実習と都度の記録・振り返りを通じて、創造的・実践的态度を身につける。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	日本農業技術検定2級・3級		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	適宜指示する		
成績評価の方法 ・基準	授業出席率、受講態度及び課題提出等を総合的に判断し評価する。ただし、出席率が70%を下回る場合は不可とする。		
履修に当たっての留意点	機械等操作する場面が多いため、安全面には特に留意してもらいたい。		

授業計画	テーマ	内容
第01回目～第08回目	圃場面積の求め方	簡易測量法を用いて圃場を班ごとに区分けする
第09回目～第16回目	作付計画の立案	各班ごとに年間の作付計画を作成する
第17回目～第24回目	総合病害虫管理①	連作障害対策や耐病性品種について
第25回目～第32回目	種子と育苗	連作障害対策や耐病性品種について
第33回目～第40回目	pH・肥料計算	簡易土壤診断の結果をもとに施肥設計を行う
第41回目～第48回目	農業機械の基本操作①	乗用トラクタの仕組みと操作方法
第49回目～第56回目	総合病害虫管理②	接ぎ木の方法と効果
第57回目～第64回目	総合病害虫管理③	マルチ・寒冷紗の役割
第65回目～第72回目	農業機械の基本操作②	背負い式・動力防除機及び農薬の使用
第73回目～第80回目	農業機械の基本操作③	歩行型トラクタの仕組みと操作方法
第81回目～第88回目	収穫・調整	収穫適期や調整方法、規格
第89回目～第96回目	販売	販売の実践
第97回目～第104回目	機械・農具メンテナンス	機械類の整備と洗浄・管理
第105回目～第112回目	プレゼンテーション手法	スライド作成ソフトを用いたプレゼンテーション資料の作成手法を学ぶ
第113回目～第120回目	資料作成	研究課題のとりまとめ、プレゼン資料の作成